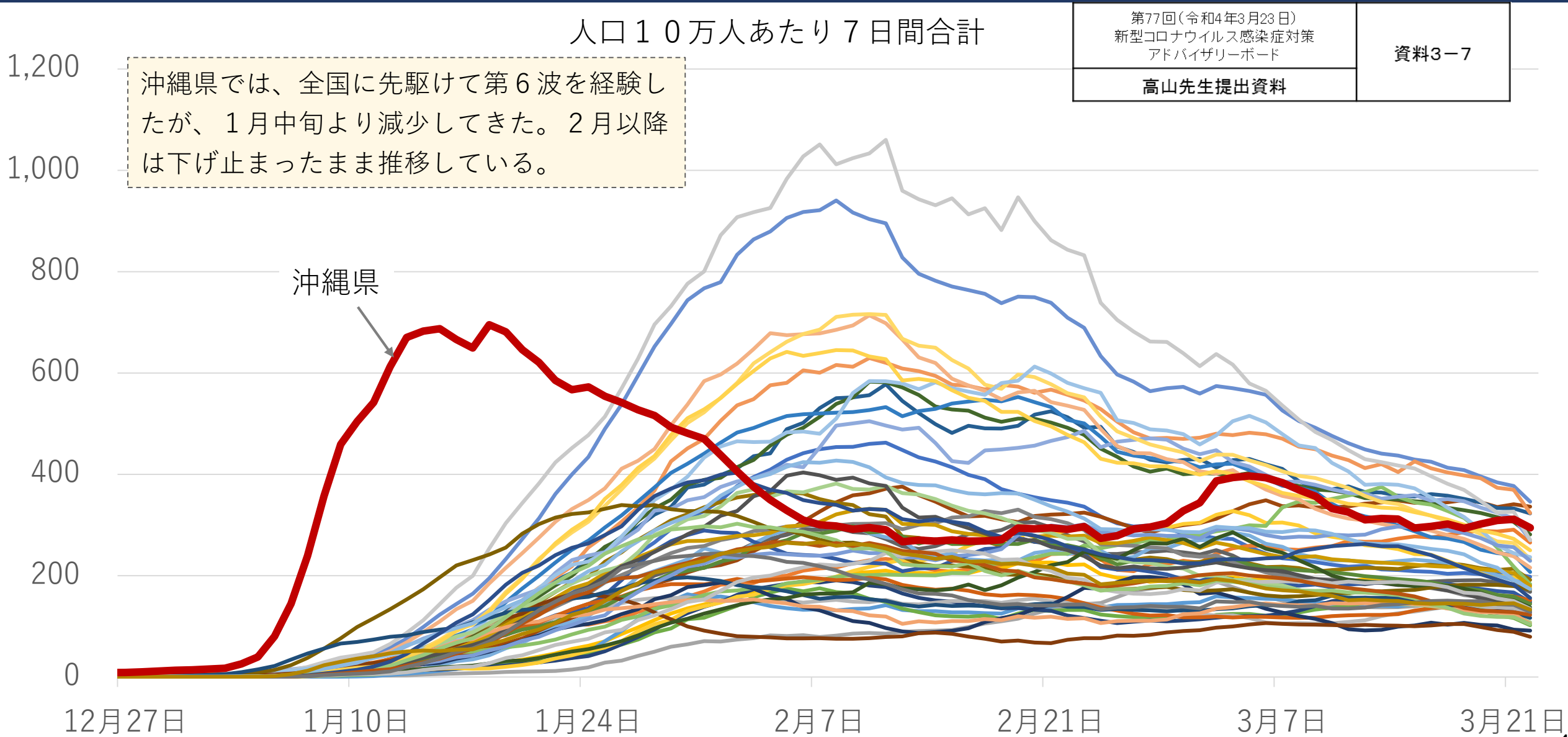


図1 都道府県別にみる新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)



出典：NHK特設サイト「新型コロナウイルス」掲載の都道府県ごとの陽性者数をもとに作図

図2 性年齢階級別に見る陽性者数 (3月14日~20日)

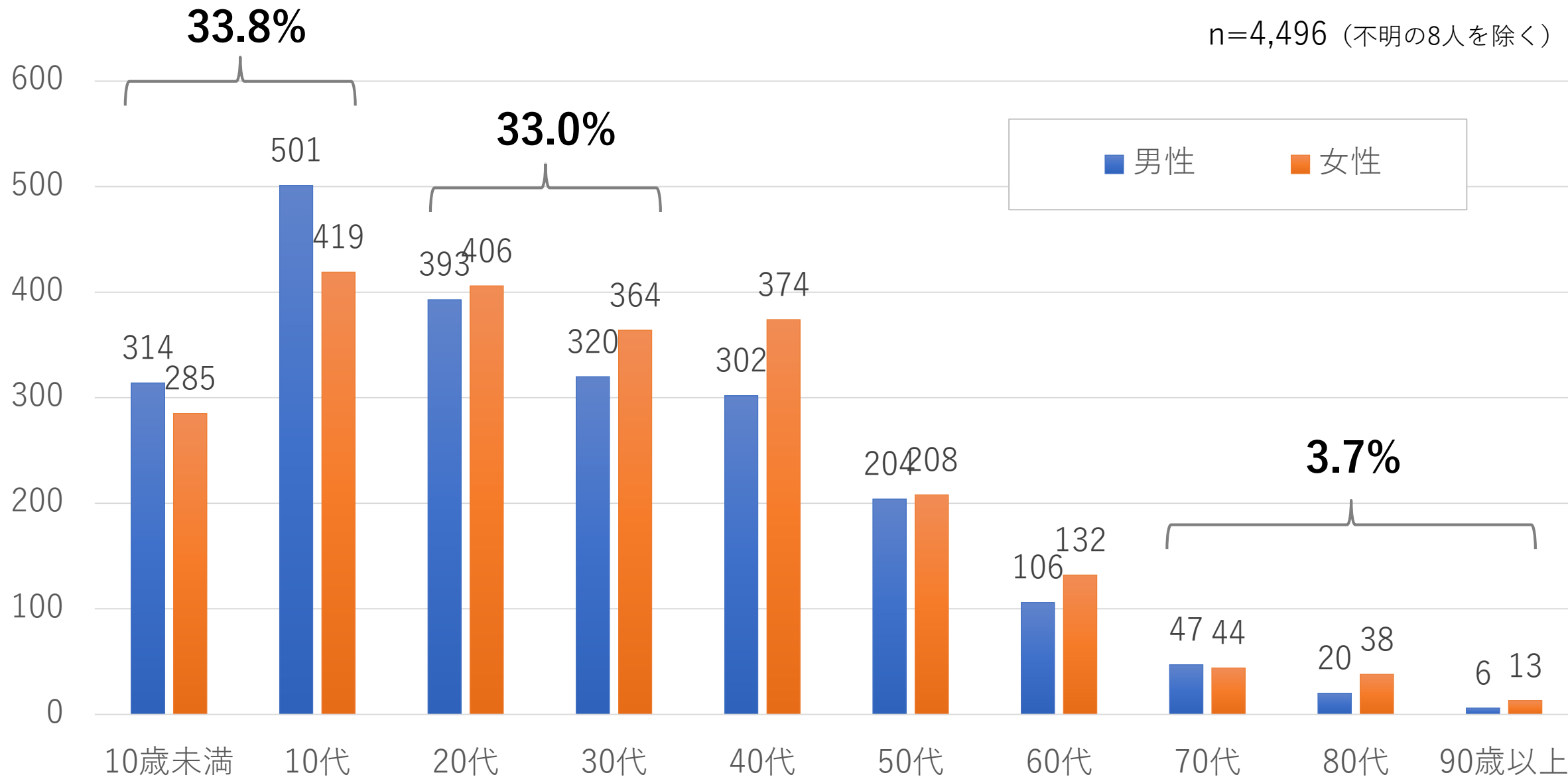


図3 年齢各歳別にみる新規陽性者数（3月14日～20日）

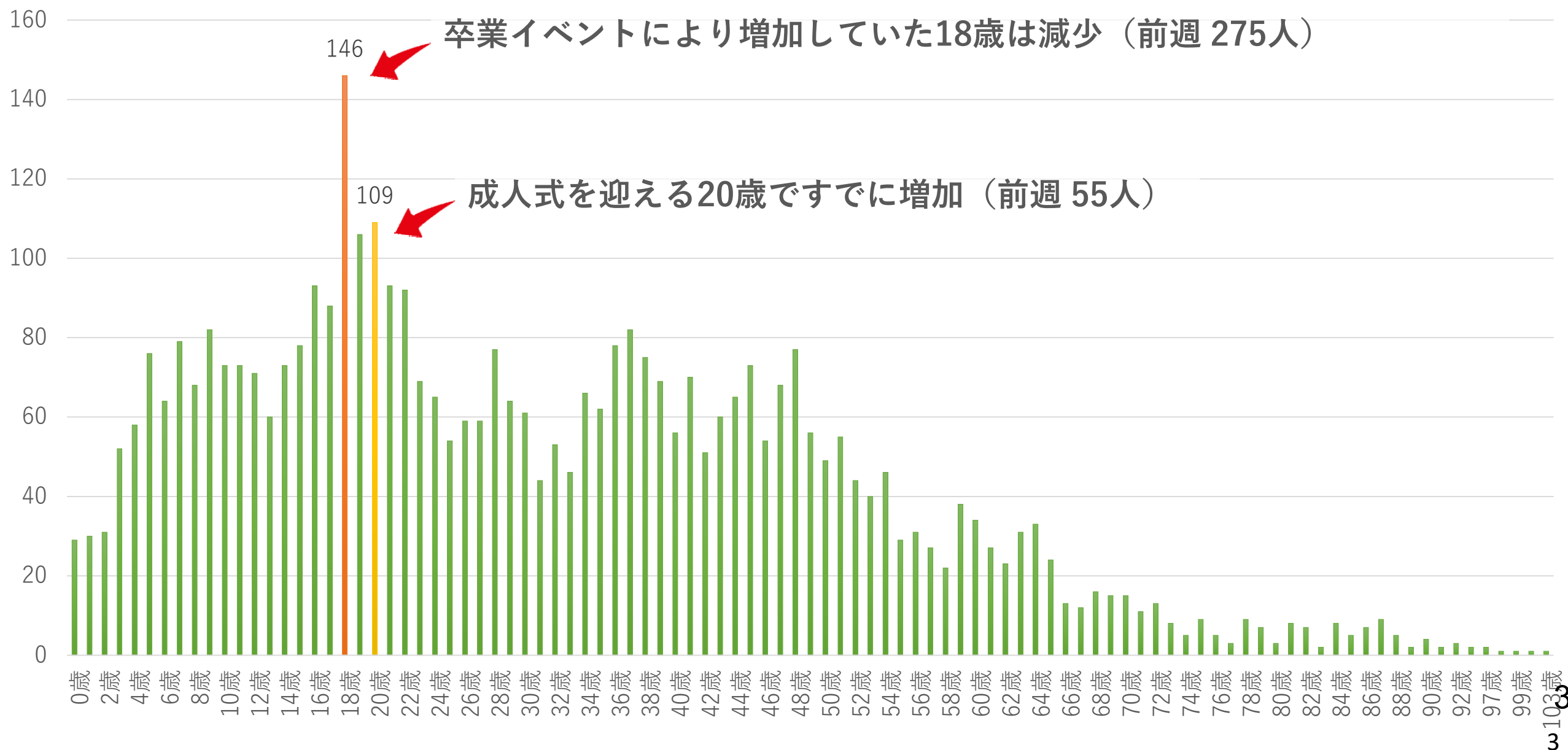


図4 幼年・若年層における推定感染経路（沖縄県）

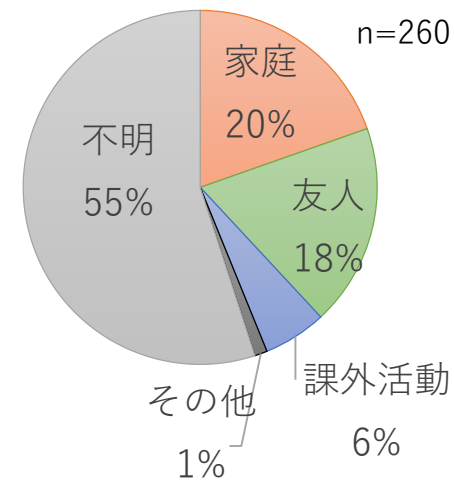
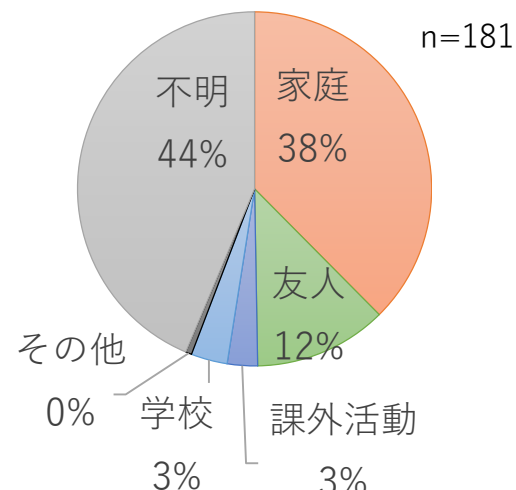
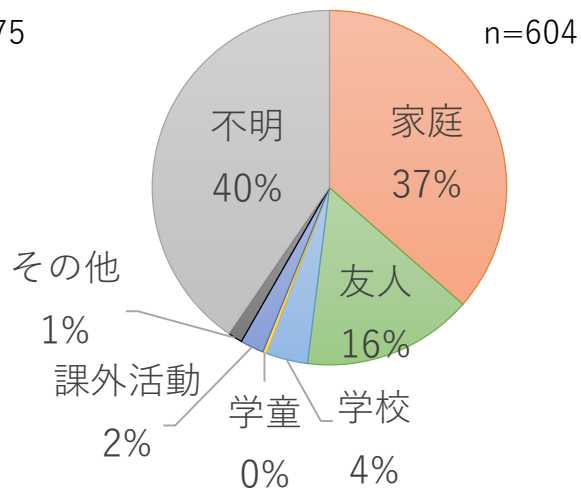
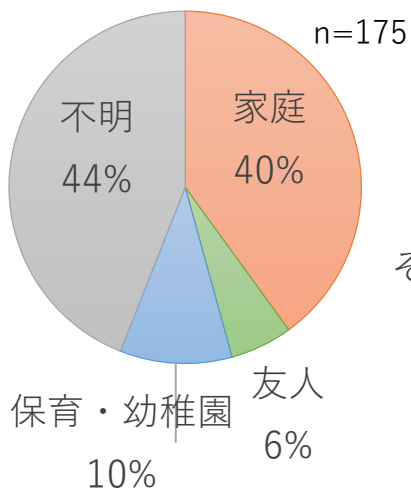
保育・幼稚園児

小学生

中学生

高校生

3月7日～13日



3月14日～20日

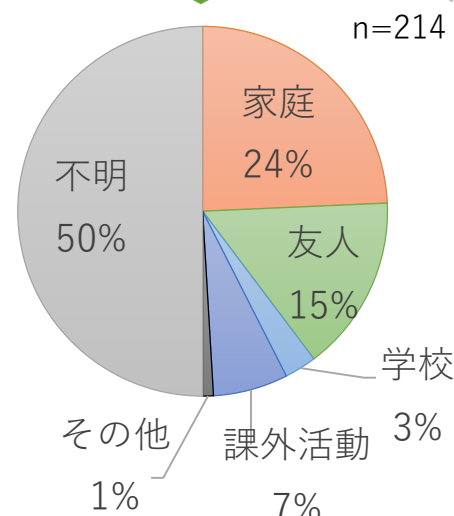
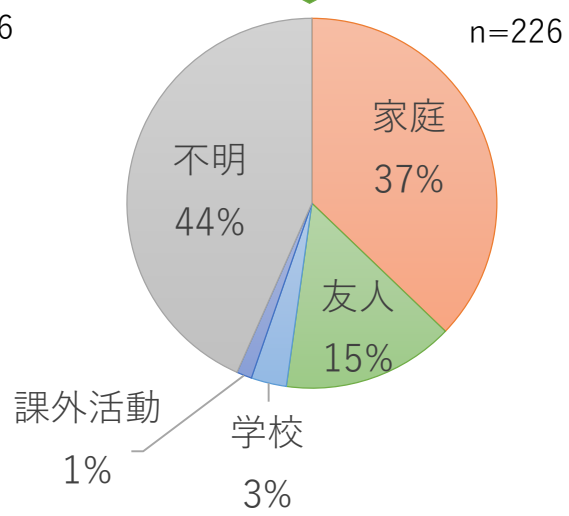
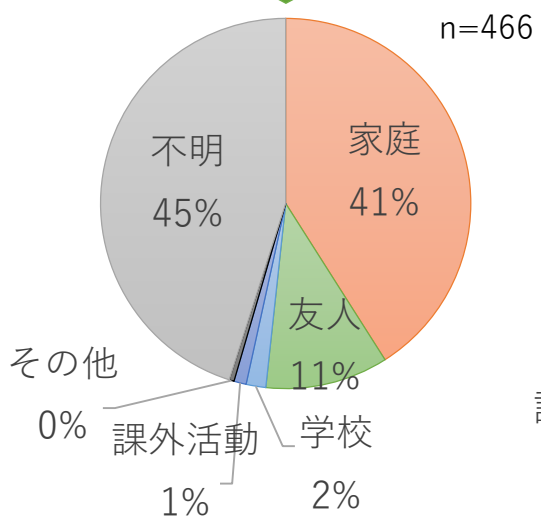
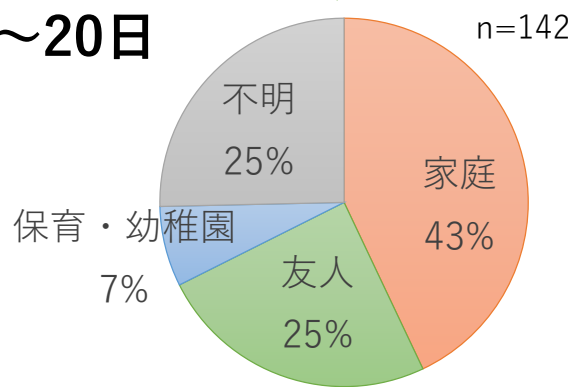
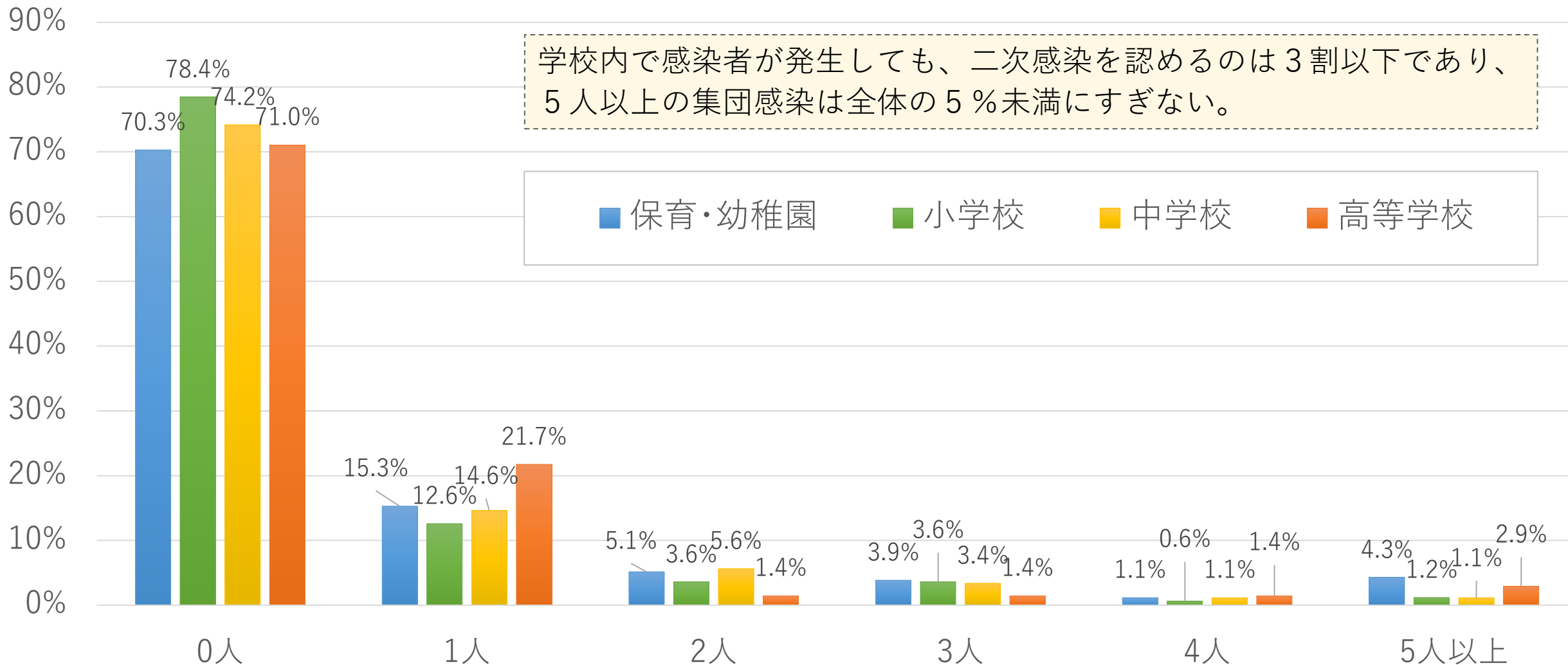


図5 二次感染者数別にみる発生頻度（沖縄県学校PCR検査事業）

2022年1月1日～3月11日



学校内で感染者が発生しても、二次感染を認めるのは3割以下であり、5人以上の集団感染は全体の5%未満にすぎない。

■ 保育・幼稚園 ■ 小学校 ■ 中学校 ■ 高等学校

学校内で陽性を認めたのち、本事業によりを確認した感染者数

図6 学校内における接触者の陽性率（沖縄県学校PCR検査事業）

2022年1月1日～3月11日

濃厚接触者に検査を実施しても9割以上が陰性であった。
陽性者の3割近くは濃厚接触者以外から確認されている。

- 濃厚接触者（保健所の定義による）
- その他の接触者（同一クラスなど）

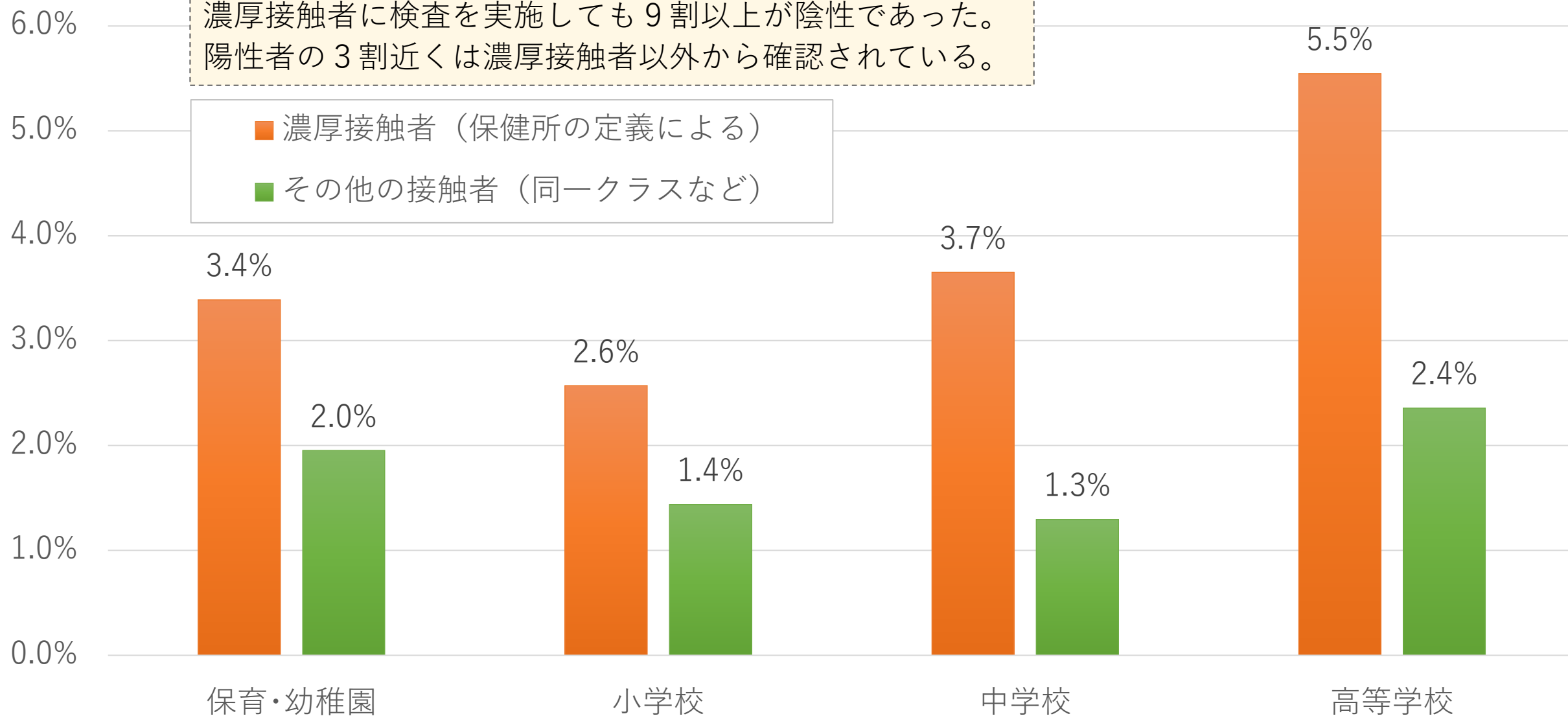


図7 陽性者発生1件あたり二次感染者数（沖縄県学校PCR検査事業）

2022年1月1日～3月11日

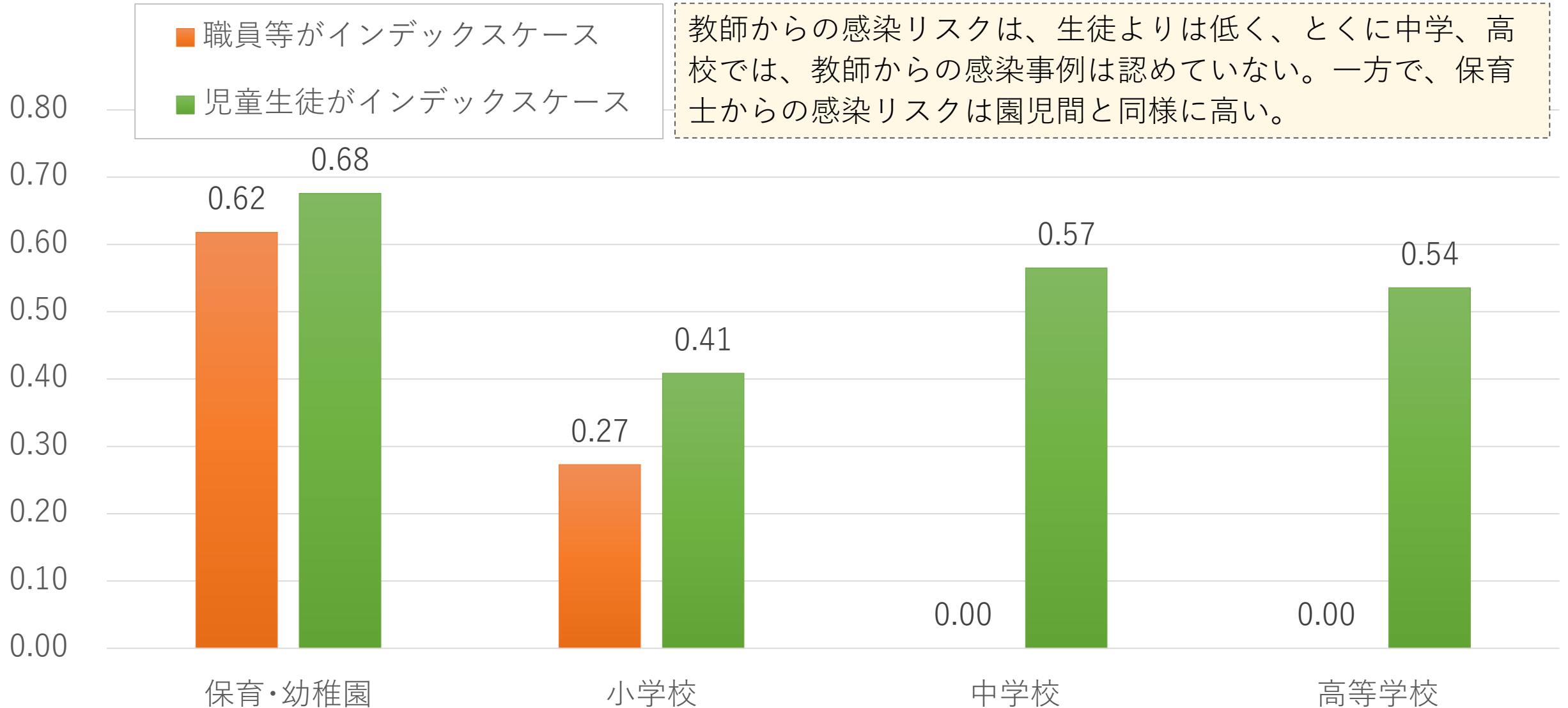


図8 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移

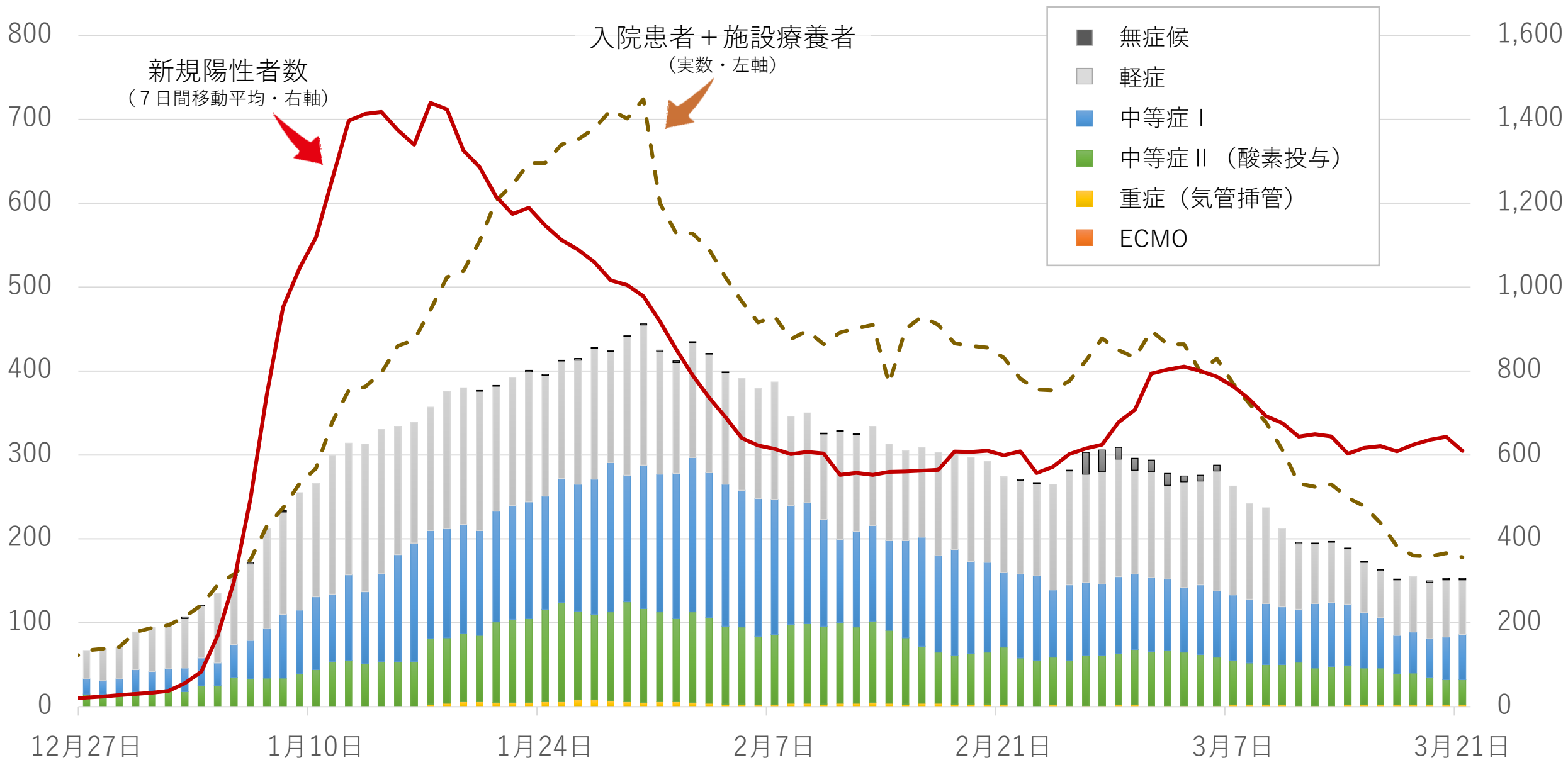


図9 入院患者数、新規入院患者数、新規陽性者数の推移

オミクロン株による医療への負荷を新規陽性者数と死亡数でとらえることは困難である。医療逼迫を早期探知するうえでは、入院サーベイランスによる「新規入院患者数」が有用な指標となる。

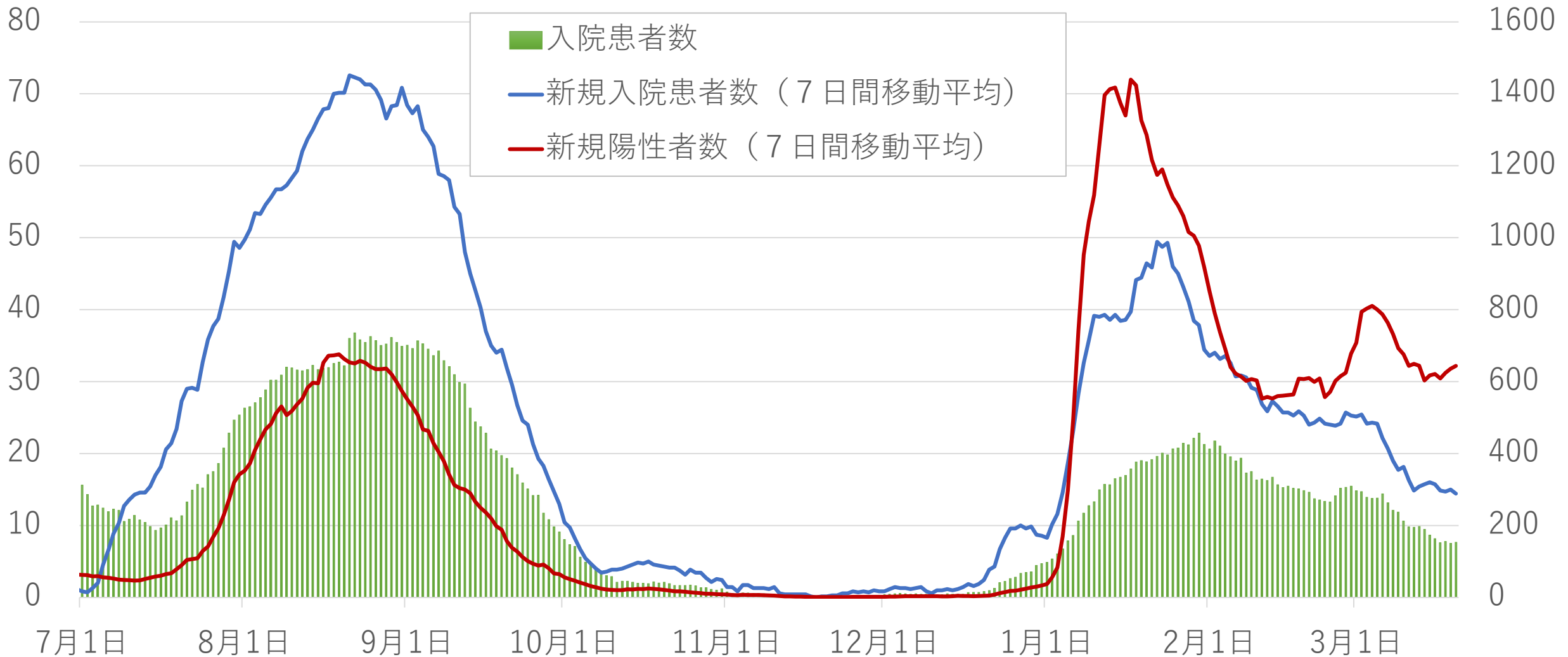
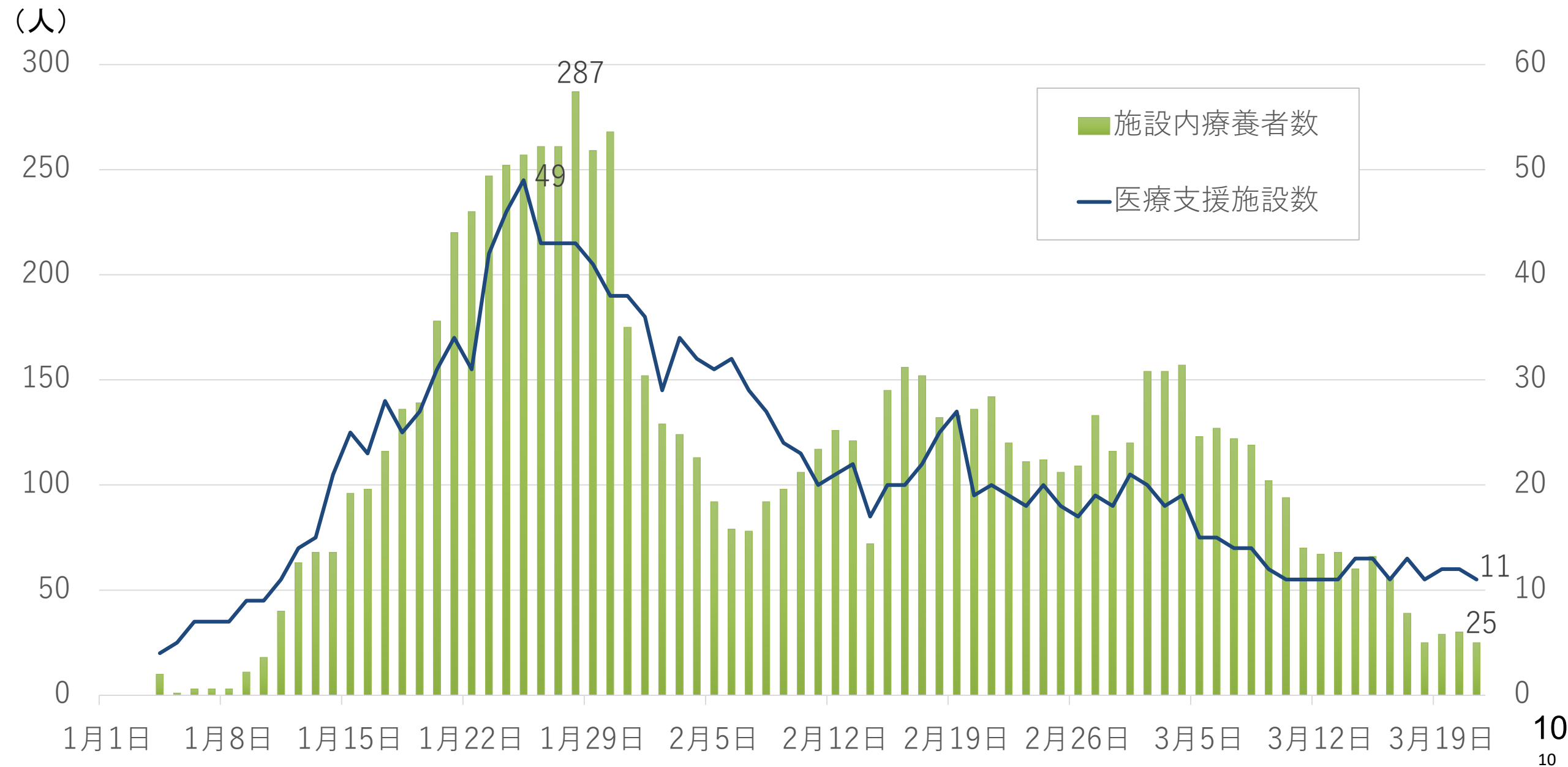


図10 社会福祉施設における施設内療養の状況



社会福祉施設における集団感染 支援の流れ

職員もしくは入居者に1人でも陽性者を確認



地域の医療機関と保健所、
県施設支援班で速やかに共有

迅速対応チームによる原則24時間以内の支援介入

- ① 感染対策の指導
- ② 集中的検査の実施
- ③ 資機材の供給



陽性者が複数発生
または複数発生が見込まれる場合

どこまで施設療養を継続するかを決定（基準を参照）



施設従業員、家族等とのコンセンサス
県の責任で継続的な支援体制の構築

施設療養の支援（必要に応じて施設内に支援本部を立ち上げ）

- ① 陽性者に対する速やかな治療薬の投与（人工抗体薬等）
- ② オンライン診療、訪問診療、訪問看護によるサポート
- ③ 継続的な感染対策の指導（実地とオンラインの組み合わせ）



